

## 桜の子・虹の子・若鮎の子をめざして

本校は、最上川の流れによってできた小高い河岸段丘に位置し、児童数 61 名の創立 140 年を迎える歴史ある学校です。学校を取り巻く豊かな自然環境や温かな人的環境の中で育てたい子どもの具体像として、校歌に詠われた言葉から

☆桜のように優しい光を放つ「桜の子」(徳)

☆虹のように夢を高く掲げる「虹の子」(知)

☆川を遡るたくましい「若鮎の子」(体)

を設定し、調和のとれた教育活動を推進してきました。

### 「桜の子」をめざして

人権の花植え(源次兵衛さん活動)、クリーン作戦、秋の花いっぱい運動等花や自然・郷土を思いやる心を育て、人を思いやる心につなげていきたいと考えています。



また、自分達で育てた里芋で縦割り班芋煮会を行う中で、下学年を思いやる心、上学年にあこがれる心を育てています。

### 「虹の子」をめざして



暗唱の奨励や全校群読・合唱の発表に力を入れています。また、学びの共同体の考えを生かした授業実践を行い、はきはきと元気よく発言できる

表現力、共に考えよりよい考えを共同で創り出そうとする思考力の向上をめざしています。

### 「若鮎の子」をめざして

朝の時間の体力づくりタイムに全校生で学校の周りのサーキットコースを回ります。「ふしぎの森」あり、山道あり、坂道ありのコースです。

また、6年生は毎年夏休みに親子で大朝日岳山頂をめざす朝日登山の伝統があります。



これら多様な学習活動や体験を通してたくましく成長し、卒業する子ども達です。

## 大規模校なのに、『つながり』が学べる学校

東洋経済都市データバンク『住み良さランキング』によると、東北・北海道地区の第2位に本市がランクされています。本校は、この人口の増え続けている町に誕生して4年目、3年間で児童数が約100名増え、市のシンボリックな学校になっています。校舎は子どもと環境に最大限配慮した設計思想のもと、PFI方式で建設・運営されています。現在も県内外からの視察団があるほどです。また本校では、教育活動の途中の子どもたちの姿を公開しようということで、HPにも力を入れています。アクセス数は年間15万件にもなっています。

本校の教育活動の特色を一言で紹介するなら、『大規模校なのに、つながりが学べる学校』です。目の前の子どもたちが、近い将来この変化の激しい社会の中で生き

ていく時のことを見越した教育を行っています。つまり、①『自分で考え、判断し、表現する力』と、②『つながる力』を重要視しています。①については、主に授業の中で意図的に育成します。②については、主に縦割りの『仲よし班活動』の場面での育成をねらっています。もちろん授業や行事も重要な場面になります。子どもたち全員にリーダーとフォロワーの体験をさせて中学校に送り出しています。一人一人の将来の自立を目指しているのです。

仲よし班については、6つの場面での活動を行っています。その中でも、学校脇の村山野川で行う全校647人による秋の芋煮会は圧巻です。さらに、昨年度から行っている仲よし班清掃では、リーダーを中心に実にしっかりと時間をすることができています。



仲よし班芋煮会



仲よし班清掃